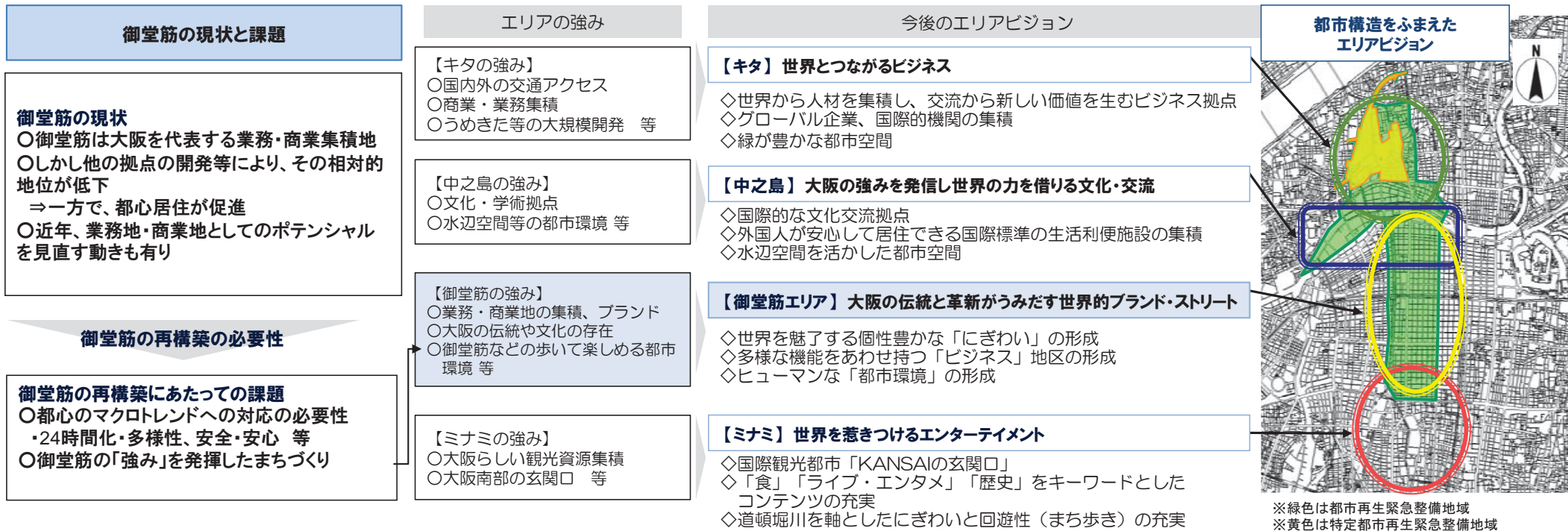


II. 御堂筋エリアのビジョン

II. 御堂筋エリアのビジョン



御堂筋エリアのビジョン

【コンセプト】 **大阪の伝統と革新がうみだす世界的ブランド・ストリート ～歩いて楽しむ、24時間稼働する多機能エリアへ**

【今後の御堂筋の方針】 **1. 安全・安心かつ複合的な都市機能を備えたまちへ** **2. 御堂筋の強みをより発揮した大阪の顔にふさわしい世界的なまちへ**

【各分野における取組方針】

都市機能(産業)

**1. 世界を魅了する個性豊かな「にぎわい」の形成
～御堂筋フェスティバルモール化**

- ・世界を魅了する大阪・関西一の「ハレ」の場として、クオリティの高いデザインストリートの実現などにより、キタからミナミまで各エリアの個性をいかした多様なにぎわいを形成することで、御堂筋のブランド力向上を図る。

2. 多様な機能をあわせ持つ「ビジネス」地区の形成

- ・エリアのブランドや歴史・風格ある都市環境等を強みとした大阪を代表する業務集積地を形成する。
- ・業務機能を軸としながらも、業務機能の強化に資する多様な機能（商・学・住等）の導入を図る。
- ・また、防災性能・環境性能の向上を図り、エリア全体として国際レベルの都市機能を備えたビジネス地区の形成をめざす。



都市デザイン

3. ヒューマンかつ高質な「都市環境」の形成

- ・統一感のある都市景観を継承しつつ、ヒューマンスケールのまちなみ形成を図るとともに、人中心の道路空間への再編の動きと連動しながら、ヒューマンかつ高質な「都市環境」の形成を図る。

II. 御堂筋エリアのビジョン

御堂筋の各ゾーン毎の将来像(案)



	①淀屋橋～本町・沿道	②本町～長堀・沿道	③御堂筋周辺(船場地区)	④長堀～難波
現状	<ul style="list-style-type: none"> ■業務集積地としての相対的地位が低下 <ul style="list-style-type: none"> ・近年の社会経済情勢の影響や周辺開発の進捗にともない、沿道ビルのオフィス賃料等は下落傾向 ■近年一部では質の高いにぎわいも充実 <ul style="list-style-type: none"> ・近年、淀屋橋odonaや本町ガーデンシティ等、魅力ある施設も見られるが、全体としては乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■業務と商業が混在 <ul style="list-style-type: none"> ・淀屋橋～本町の業務エリアと長堀～難波の商業エリアに挟まれ、業務と商業が混在するエリア ■ブランドショップ、高級車のショールーム等の立地 <ul style="list-style-type: none"> ・長堀通りに近いエリアにおけるブランドショップの立地とともに、昨今、沿道ブランドの評価から高級車のショールーム等の立地が相次ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ■居住系への土地利用転換が進捗 <ul style="list-style-type: none"> ・船場地区ではオフィス需要の低迷等により、居住系の土地利用への転換が目立つ ■歴史資源等を活かした取組の進捗 <ul style="list-style-type: none"> ・三休橋筋の整備、ライトアップなど歴史を活かした取組みが進捗 	<ul style="list-style-type: none"> ■商業地としての相対的地位の低下 <ul style="list-style-type: none"> ・梅田や阿倍野において商業の集積が進み、相対的地位が低下 ■外国人観光客の増加 <ul style="list-style-type: none"> ・国内の観光客はもとより、一時的な減少はあったものの近年は中国人や韓国人観光客が増加傾向 ■マンションやSOHOの立地 <ul style="list-style-type: none"> ・堀江地区等では、マンションやSOHO等の立地が進む
強み	<ul style="list-style-type: none"> ■業務地としてのブランド <ul style="list-style-type: none"> ・相対的地位は低下しつつあるが、現在も大阪一の業務集積地区であり、沿道は大阪経済の顔 ■大阪の上質な歴史・文化 <ul style="list-style-type: none"> ・沿道には、大阪の上質な歴史文化を代表する資源が存在 ■風格ある都市景観 <ul style="list-style-type: none"> ・統一されたまちなみなど風格ある都市景観を形成 	<ul style="list-style-type: none"> ■空間的な落ち着き <ul style="list-style-type: none"> ・都心でありながら、空間的な落ち着きを持ち合わせている地区 ■時代のニーズに合わせて表情を変える多機能複合空間 <ul style="list-style-type: none"> ・御堂筋沿道であるブランドは保ちつつ、淀屋橋～本町、長堀～難波間の機能が融合し、時代のニーズに合わせて表情を変えることができる多機能複合空間 	<ul style="list-style-type: none"> ■業務機能の集積 <ul style="list-style-type: none"> ・企業の流出は進むが、現在も金融や製菓、商社等、大阪を代表する企業が集積 ■大阪の上質な歴史・文化 <ul style="list-style-type: none"> ・適塾などの歴史資源や船場文化など、船場地区では、大阪の上質な歴史文化が存在 	<ul style="list-style-type: none"> ■大阪・関西を代表する集客・観光資源 <ul style="list-style-type: none"> ・道頓堀等、大阪・関西を代表する集客・観光資源が集積 ■活力ある多様な商業集積 <ul style="list-style-type: none"> ・国内外、世代を問わず、様々な人が楽しめる活力ある多様な商業集積の存在
課題	<ul style="list-style-type: none"> ■土日や夜間のにぎわい <ul style="list-style-type: none"> ・業務機能が大半を占め、土日や夜間も含めエリアのブランド力向上につながるにぎわい形成が課題 ■エリアの再構築 <ul style="list-style-type: none"> ・業務地としての相対的地位の低下を踏まえ、エリアの再構築の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ■業務エリアと商業エリアを結ぶエリアとしての役割の発揮 <ul style="list-style-type: none"> ・業務エリアと商業エリアを結ぶエリアとして、強みをいかした特色のさらなる発揮 	<ul style="list-style-type: none"> ■業務機能の充実強化 <ul style="list-style-type: none"> ・沿道同様、業務地としての相対的地位の低下を踏まえ、エリアの再構築の必要性 ■土日のにぎわいの充実と回遊性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・土日のにぎわいも含め、にぎわい形成や回遊性向上が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ■商業地としての新たな魅力の充実・創出 <ul style="list-style-type: none"> ・商業地としての相対的地位低下を踏まえ、新たな魅力の充実・創出の必要性
方針	業務を軸としつつ魅力あるにぎわいの積極導入によりエリアを再構築	落ち着きのある空間の強みをいかし、都心の多様性、多機能化といった時代のニーズに合わせた特色の発揮	職住近接を支えるエリアとして多機能化	個性や活力をキーワードとし集客・観光の拠点性を向上
将来像	<淀屋橋～本町・沿道> 上質なにぎわいと 風格あるビジネス地区	<本町～長堀・沿道> 特別な時間を愉しむことができる 落ち着きある複合地区	<淀屋橋～長堀・周辺(船場地区)> 船場スタイルとしての 職・住・遊近接型のコンパクトな街	<長堀～難波・沿道及び周辺> 大阪を代表する 活力ある集客・観光拠点